

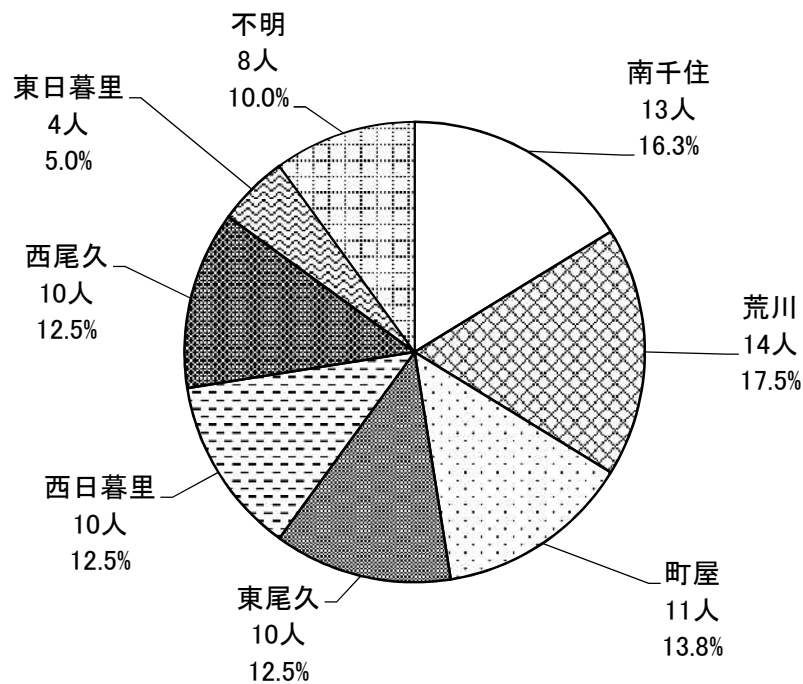
令和4年度第1回 あらかわ・Eモニターアンケート結果

◆調査の概要

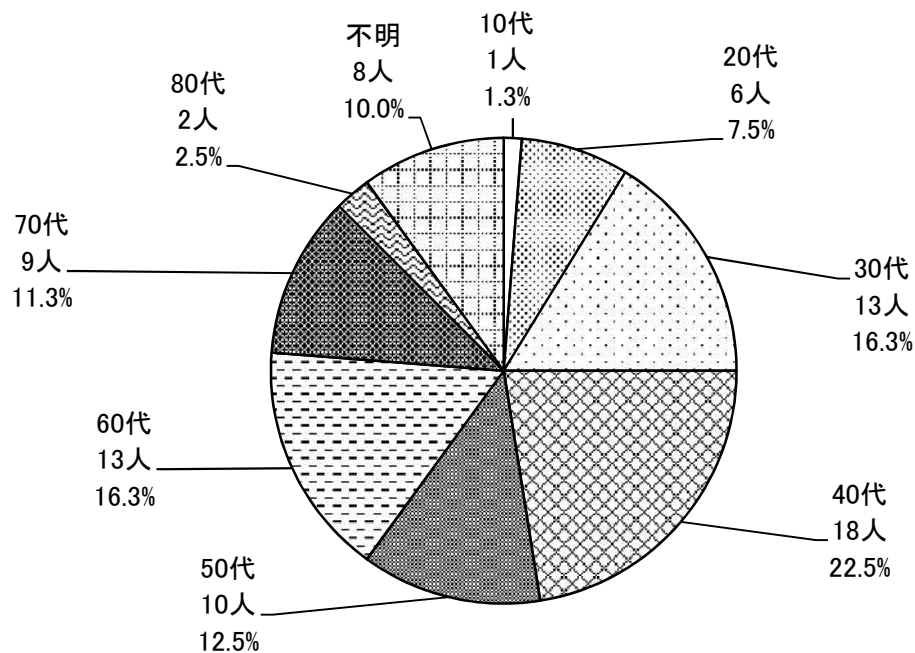
- ① 調査項目 パラスポーツに係る意識調査について
- ② 調査対象 令和4年度あらかわ・Eモニター 92人
- ③ 調査期間 令和4年7月22日（金）～8月12日（金）
- ④ 回答数（率）80（86.9%）

n＝比率算出の基数（サンプル数）、また、回答比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないものがある。

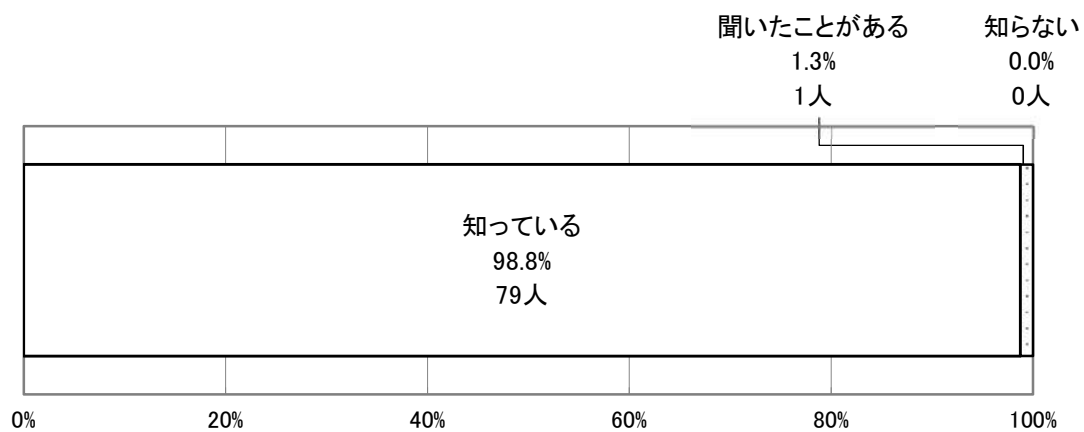
回答者地域別構成比 n=80



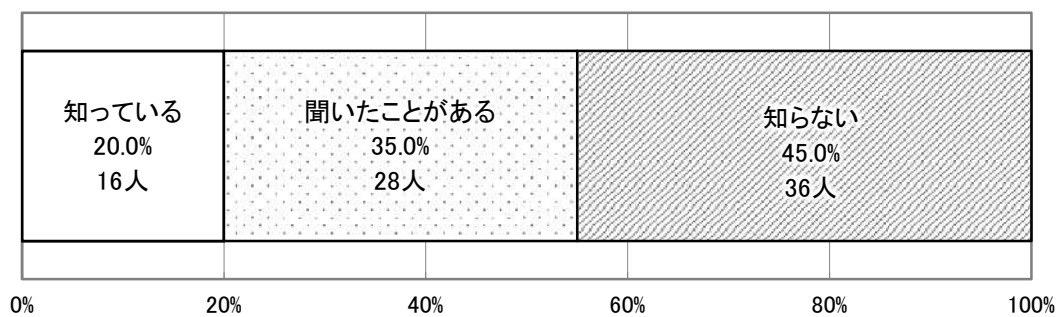
回答年齢別構成比 n=80



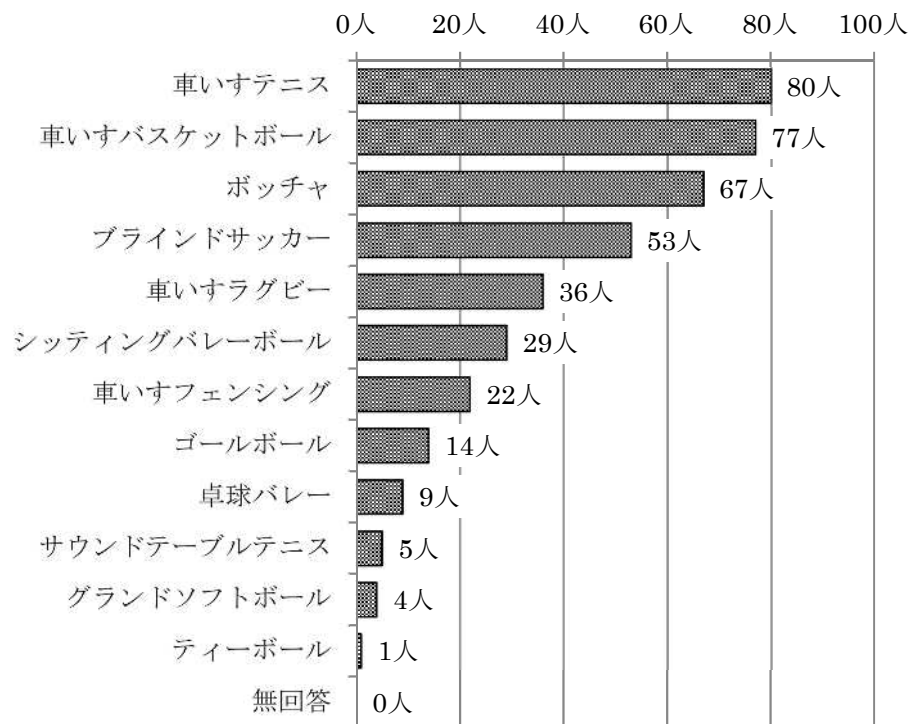
問1 パラリンピックを知っていますか。n=80



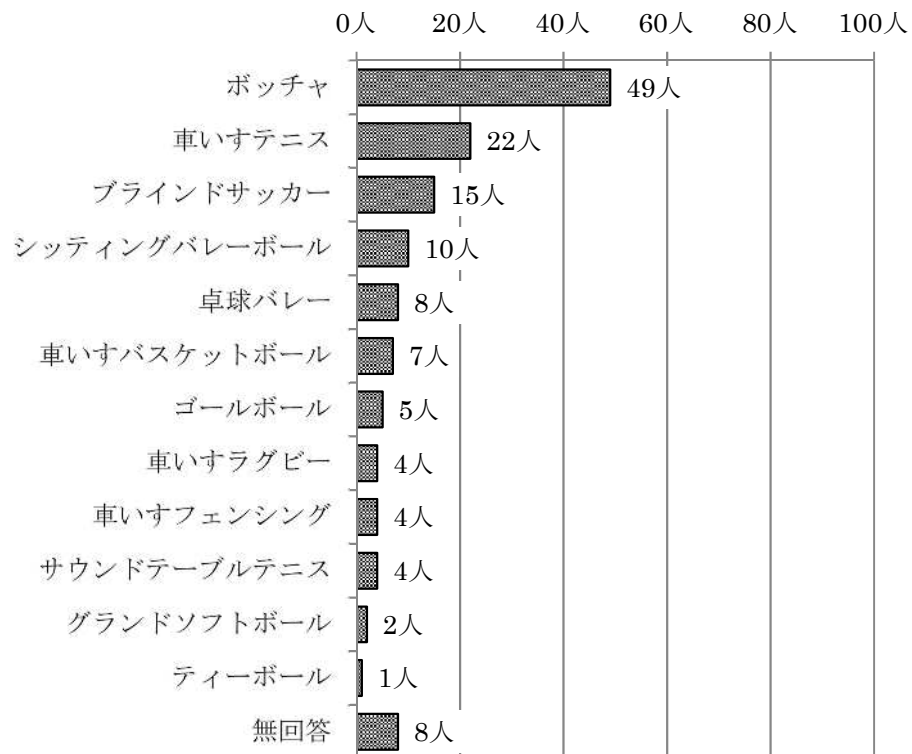
問2 デフリンピックを知っていますか。n=80



問3 下記のパラスポーツ（障がい者スポーツ）のうち、知っているものを教えてください。（複数選択可） n=80



問4 下記のパラスポーツ（障がい者スポーツ）のうち、体験したいものを教えてください。 n=80



**問5 障がい者と健常者が、ともにスポーツを楽しみ、スポーツを通じて交流するためには、
どのようなことが必要だと思いますか。(自由記入) ※主な意見**

区施設・イベント等に関する意見について

- ・ 身近な施設（例 荒川スポーツセンター）などに車いすが置いてあり自由に使用できるなど身近にあればよいと思います。(40代)
- ・ 通常練習場所の常時提供、健常者がパラリンピックの競技を知り、それを実際に体験できるような交流会の開催 (50代)
- ・ 区として、その様なイベントを開催していく。しっかり広報をして、参加者を募る。また、小、中学校にスポーツをされている障害者の方をお呼びして、一緒に体験をしていく。子どものころから体験をしていれば、大人になってからも、自然に取り組みやすいと思いますので、教育の場でもその様な環境を作っていけると良いと思います。(50代)
- ・ 行政の旗振りが重要だと思います。(60代)
- ・ 施設の充実と障害者と健常者の接点 (60代)
- ・ 自然発生的にその様な交流は起きづらいと思うので、行政なりが魅力的な無料イベントを催す。そして魅力的な参加賞を用意すれば、その様な交流に興味が無い方々にも、参加賞目当てで参加させる事が出来るかもしれない。そして参加してみれば、これまで全く意識してこなかったかもしれない障がい者について、考えるきっかけになるのではないだろうか？ (40代)
- ・ 幅広い世代への通知、インターネットを使って申し込みやすくすること、受け入れ枠の増加 (30代)
- ・ ◎定期的にスポーツの日を設けて、公共施設で共通のスポーツを行う ◎スポーツ普及員を募集してスポーツの日に運営してもらおうと良い (不明)
- ・ 機会を作ること、設備を作ること (20代)
- ・ スポーツをする設備の充実。駐車場、車椅子トイレ、エレベーター、点字など。少し興味があるが、パラスポーツのイベントが掲示されていても、なかなか時間がなく体験できない。学生のうちに授業の一環で取り入れてもらえたら、良かったなと思う。(30代)
- ・ 体験イベントの実施 (30代)
- ・ 障がい者でも健常者でも使える競技場の整備が必要だと思う。(70代)
- ・ イベントなどを行って身近になればと思います。(50代)
- ・ 定期的な交流イベントをひらくのはどうでしょうか。また区のHP、街の掲示板、学校や保育園でのポスター掲示等で広報するのもいいと思います。(30代)
- ・ スポーツに取り組みやすい競技ルール（こちらは上記のスポーツには対応されているので新競技の場合）、両者が参加しやすい場所、競技運営を手伝うボランティア、参加報酬があれば楽しめると考えます。子供の部、成人の部、シニアの部、上級者の部、など年齢で区切るのも良いかと思います。(40代)

- ・ 障害者と健常者が交流する機会そのものが少ないので、敷居の低いスポーツ交流会を数多く実施するとよいと思います。まずは、障害者向けのスポーツを健常者も気軽に体験できるイベントを実施してはどうでしょうか。数多く開催し、回数を重ねれば、より競技性が高い、スポーツ大会らしいスポーツでの交流もできるようになると思います。(40代)
- ・ スポーツの日を定期的に作り、区の施設を開放していったらよいのではないのでしょうか。(70代)
- ・ 障がい者スポーツ選手の講演会やスポーツを通じた交流会を開催することで、交流の機会と場所を設けることが大切だと思います。また、公共施設に障がい者スポーツを特集したボードなどを設置したり、障がい者スポーツに使う道具を触れて見れるような展示をすることで、多くの人に障がい者スポーツに対する関心や興味を持ってもらえるかもしれません。(10代)

パラスポーツを知る・体験することに関する意見について

- ・ 健常者がパラスポーツを体験して、面白さを感じる必要があると思う。(30代)
- ・ まず障害者スポーツが広く知られていません。健常者が障害者スポーツを知る必要があると思います。例えば学生でも楽しめるように障害者スポーツの部活があったり、一般人も応援できるようなプロの試合があればいいなと思います。(20代)
- ・ どんなスポーツがあるか、いろんな人に知ってもらう機会が全然無いんだと思います。自分もテレビで紹介されている競技しか知りませんでした。(40代)
- ・ とにかく体験しないとわからないので、自分がやってみる機会や観戦する機会があれば良いと思う(30代)
- ・ 観戦の機会を増やすといいと思います。(40代)
- ・ まずは、パラスポーツを体験すること。(50代)
- ・ 健常者が歩み寄り障害者スポーツにチャレンジしてもいいのではと思います。(不明)
- ・ より難易度が高い障がい者のスポーツを理解することで、どのような苦労や大変さがあるのかを理解できるためパラスポーツの体験は有効であると思う。(40代)
- ・ 大会、練習が身近にある事。開催されている事すら知らないのが実情。身近にする手段として、区報に開催を掲載する事。(不明)
- ・ まずは健常者がパラスポーツに興味・関心を持つことだと思います。オリンピックは大々的にテレビ中継しますが、パラは表というより裏側で行われているイメージがします。なので意識しないと観戦しない・・・という人も多いのではないのでしょうか。私もそうですが、テレビでたまたまパラを見たときに、選手の活気と迫力に感動をしました。もっともっと一般の人に見てもらう機会を作り、そして興味を持ってもらう。そうすれば「一緒にやってみたい」という人も増えるのではないのでしょうか。(40代)

- ・ 健常者がハンディキャップを持っている方々を理解するためには、各種の障害者スポーツに参加して、体験する機会を持つことから始めるのが近道だと思います。障害者という表現が以前から気になっています。適切な表現があればいいのですが（70代）
- ・ どんな種目があるか、どんなスポーツなのかをもっと広報等で周知したほうがいいと思います。（70代）
- ・ 前からパラスポーツと言う名前は知っていましたが、実際の競技内容までは知りませんでした。昨年のパラリンピックを見ることにより、スポーツに興味を持つとともに自分でも体験したいと思うようになりました。障害者と健常者が一緒に参加出来るイベントが増えることが交流の大きなきっかけになると思います。（60代）
- ・ ルールがわかりやすく、競技時間が比較的短いと親しみやすいと思います。何か一つのスポーツ（指導者がいる、競技団体サークルが既に存在する）にフォーカスしたらよいかと思います。ボッチャはいかがでしょうか。（不明）
- ・ 認知度が低いと思われるので、広告やイベント等を通じて、情報を発信すること（40代）
- ・ 健常者にとっては障がい者スポーツは馴染みがないため、なによりも一度体験してみることが重要かと思います。そうした場や機会を多く作り、広く呼びかける必要があるのではないのでしょうか。（60代）
- ・ まずは観戦、そして体験することが大切だと思います。（20代）
- ・ 健常者間におけるマイナースポーツが拡大するために必要なことと同じく、まずは健常者に「障がい者スポーツ」が認知されることが重要。短期的な取り組みは、区のレベルで出来ることは限られていると思うが、長期的な取り組みは、義務教育における「障がい者スポーツ」の観戦、「障がい者スポーツ」選手との交流など、「障がい者スポーツ」に触れる層の底辺を広げる活動が良いかと思う。（40代）
- ・ 障がい者スポーツで個人的に知らない競技が多いため、まず初めにスポーツの種類と競技内容を区民に理解してもらうことが大切だと思います。競技名では選択肢で初めて目にした項目もあり、種目が理解出来ないと交流以前の問題で関心が持てません。（不明）
- ・ 健常者がパラスポーツを体験することが大切だと思います。日常生活ではそうそうその機会がないので、体験する機会を多くして、敷居を下げることで、両者ともに楽しんで交流することにつながると思います。（30代）

障がいに対する理解・考え方について

- ・ 障害そのものとスポーツに対する同じ水準での理解（30代）
- ・ 共に笑顔で、互いに障害は意識せず、でも助け合う。（60代）
- ・ お互いを理解し信頼すること（60代）
- ・ 障害だから出来ないという考え方をなくす。障害者と健常者の人共通のスポーツルールをもうける。パラスポーツなどを積極的に宣伝する。（40代）

- ・ 健常者が障がいのある人の障がいを理解すること。障がいの理解とは、単に身体上の特徴や症状だけでなく、その障がいによって、日常生活やスポーツをする際に、どのような制約（困りごと）があるのか、彼らは、その障がいを乗り越えるために、日ごろどのような自身の努力や支援を受けているかについて理解することです。（60代）
- ・ 相手のことを、思いやることが大切なのではと思います。（70代）
- ・ 見えない人にも弱視と中途失明など見えなくなった範囲も経緯も様々。スポーツ交流をする前に少しでもその不安な状況を理解する機会を持ってからスポーツ交流をすることが必要では？（不明）
- ・ 障がい者の障がいを健常者が理解し歩み寄り、サポートすること、またスポーツを一緒にできることに楽しみを感じれるようにお互いに声かけやタッチなど、スキンシップができる時間や機会をつくる。（30代）
- ・ まさに、健常者がダイバーシティーの意識をきちんともつこと。（50代）
- ・ 見えない人にも全盲の方もいれば、途中失明の方もいらっしゃる。見えない不安の中身や程度、過程を理解してからスポーツによる交流を進めることが必要ではないか？（50代）
- ・ お互い（特に健常者）が相手の障害だったりできないところを理解して補い、協力出来るような意識と体制が必要だと思います（30代）

障がい者との接し方・交流について

- ・ 障がいの有無にかかわらず、相手を尊重すること。障がい者スポーツはスポーツが苦手な人にとっては入口になりやすい気がする。幅広い年代の人にいっしょに身体を動かしてほしい。（60代）
- ・ スポーツに限らず生活の様々な場面で、普通に障がい者と健常者が交流すること。ハード面でもソフト面でもバリアフリーであること。また障害に限らず、例えば加齢による衰えのある方、病気のある方など、どんな人でも参加可能であること。（不明）
- ・ 障がい者、健常者の違いがない競技に触れることが良いと考えます。ボッチャが一番の好事例と考えます。（車いすテニスなども良いのですが、健常者が車いすに乗るインセンティブがない。）学校の体育の授業のボッチャを取り入れるなどはいかがでしょうか。そして、運動会にも取り入れる！。加えて、それに連動させて地域活動で大会を開くなどすれば、裾野人口が増え、交流が増えると考えます。（40代）
- ・ 一緒に楽しめる機会を増やす（80代）
- ・ 一緒に楽しめる場所とサポートする人の育成等が重要だと思います（60代）
- ・ 健常者にハンディをつけて同じように競技すべきです。健常者も手加減せず当たり前の態度で、障害者と健常者堂々と対戦したらいい。また、健常者は障がい者になったつもりで一度スポーツをやってみるべきだ。そもそも健常者とか障害者（法改正がなされてい

ない、地方自治体では条例で障がい者と呼称している例あり)とか、もっと適切な定義呼称がないのか!!何をもって健常というのか?障害者については民主党政権時代 1 年間かけて分科会議論したが結論出ず、法律上は現在も障害者となっている。(70 代)

- ・ 健常者が日常的に利用する場所で、障がい者スポーツの大会などをもっと頻繁に日常的に行えると良いと思います。(60 代)
- ・ 私は講道館柔道で稽古をしていた期間 (1960 年～1970 年) 目の不自由な方 (視覚障害) と日々打ち込み、乱取りをしちました。(その間 1964 年東京オリンピックを経験) 現在はコーラスで目の不自由な方をメンバーとして歌を楽しんでいます。特に健常者と変わりなく自然体で接しています。お互い常に切磋琢磨です (70 代)
- ・ 障害には体だけでなく精神的な者もあり、健常と言ってもそれぞれなにかしら不自由なことがある。個人として楽しみや苦労があることを前提に交流する (40 代)
- ・ 偏見なく、のびのびと出来たらよいと、思います。みんなが楽しく和気あいあいと。(40 代)
- ・ 自分の経験から、スポーツクラブを作り、そこに健常者、障害者関係なく参加できるようにして、交流の機会を作る。(70 代)
- ・ パラスポーツを障害者と健常者が共に楽しむこと。競技そのものに、通常のスポーツと比較しても十分な競技的面白さがあること。障害者と健常者が同じラインで楽しめるだけでなく、えてして通常のスポーツから排除されがちな運動の得意でない健常者が楽しめること (スポーツでありながら例えば麻雀のように比較的偶然性の高い要素を織り込むなど)。そうした工夫によりマスを増やすこと。スポーツそのものの前後に交流の機会を設ける (ざっくばらんに話せるよう居酒屋に行くなど)。通常のスポーツ観戦において、車椅子対応の席を増やし、他の席と隔離されたような配置にしないよう工夫する (一緒に見ることも交流のひとつ)。一緒に見に行くイベントを企画する。(20 代)
- ・ スポーツすることだけではないと思う。まずは観戦などでスポーツに触れ合う中で、皆でやってみようという流れができていくとよい。障害者だけが競うような大会ではなくて、健常者も障害者もみんなで楽しめるスポーツ (もはやスポーツではなくてもよいかもしれない) があって、それが気軽に視聴できると良いのではないか。(30 代)
- ・ そもそも障がい者の大会と健常者の大会が分かれていることが問題なのでは。障がい者の方は健常者の大会に出場するのは無理があるが (そうでない人もいるでしょうが)、健常者は障がい者と同じ立場に立てば (手足を縛る、目隠しをする、耳を覆うなど) いっしょにゲームが出来るのでは。とにかく同じゲームを一緒に行うことが大切だと思う。(60 代)
- ・ 普段から、障害者、健常者、年少者、高齢者の別を作らず、やりたい人が自由に参加できる楽しい交流 (真剣にタイムや点数を競う競技ではなく) の場が、「普通」にあること。参加者の属性によって分ける必要がどうしてもある時以外は、ごちゃまぜで良いと思う。

そういう場で、力加減、相手を思いやる気持ち、障がいへの理解、障がいのある人が自然な形で助力を得る方法などを身につけて行ける。障害者と健常者の交流を、特別な場にしないことが何より大事、と思う。(50代)

- ・ 障がい者と健常者の両者による正確なルールを理解と、障がい者によるコツの説明。(50代)

幼少期からの障がい者とのふれあいについて

- ・ 義務教育時から健常者／障害者の教育課程をなるべく分けずに、一緒に学校で過ごすこと。今のチーム競技は、指導者が勝敗にこだわりすぎたり、「がんばれ」など精神論を前面に出しすぎるきらいがある。褒める指導と競技終了後に反省会ではなく雑談の場が必要ではないか。(70代)
- ・ 互いに交流する機会を増やすことが大切だと思います。まずは幼稚園保育園からはじめ、小中高、そして大人へ。小さなころから互いに触れ合う機会を増やし、一緒に何かに取り組むことが当たり前の世の中になればよいと思います。(40代)
- ・ 小学生の頃から学校同士や区のイベント等でお互いにスポーツ交流できる機会を積極的に作ることができるといいなと感じます。障がい者と健常者が触れ合う機会を幼い頃から当たり前に作ることができていると、その感覚で共に成長していくので、スポーツを含め共に生きていく感覚や社会を創りやすいのではないかと思います。私自身が成人してからそもそもスポーツとは離れてしまっているため、幼い頃から取り組みができると、きっと経験値や価値観や感覚や認知も異なるのではないかと思います。(40代)

その他

- ・ 「共生」とか「相互理解」とか、そういった目的意識はもちろん大切なのですが、そればかりだと「きれいごと」のようで説教くさく感じてしまい、一部の元々意識の高い区民以外は取っ付きにくく感じるはずです。むしろ「健常者がやっても楽しい」「ビジネスチャンスになる」といった、健常者の日常生活そのものをより豊かにしてくれるような具体的な言葉で発信する方が、多くの人に興味を持ってもらいやすくなると思います。(20代)
- ・ むずかしいと思います。違うスポーツになってしまうので交流とかは難しそう。スポーツなので語源は「ひまつぶし」とかの意味だから順位・記録関係なく一緒にやってもいいのかなと思います。交流が目的なら違う手段で良いのでは。(60代)
- ・ 失礼ながら、設問が少し曖昧模糊と言いますか、理想論なのか具体案なのか、設問中のスポーツが障がい者のみで行うパラリンピック等ではなく、障がい者・健常者が一緒に行う前提なのか、よくわかりません。が、自分なりに回答させていただきますと。パラリンピック等はオリンピック同様、高邁な目標を掲げつつ、継続的な運営のためには商業的

利益も上がる必要がある、しかし実際はオリンピックのようにはいっていません。双方がスポーツを一緒に行うのであれば、障がい者、健常者双方が楽しめる競技を新しく作る、もしくは既存のスポーツのルールを改訂することが早道ではないでしょうか？そうすることによって、障がい者・健常者を分ける必要がなく、ひいてはオリンピックとパラリンピックをわける必要もなくなる、普段の生活でも分け隔てがなくなることに繋がるのではないかと思います。(50代)